

事後評価報告書(日フィンランド研究交流)

1. 研究課題名:「自己組織化金属錯体による機能性材料の開発」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:東京大学 大学院工学系研究科 教授 藤田 誠

2-2. フィンランド側研究代表者:ユバスキュラ大学 ナノサイエンスセンター
教授 Kari Rissanen

3. 総合評価:(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

現在までに、日本側は MnL_2n 型、フィンランド側は MnL_{2n-2} 型の中空金属錯体に関する高い業績を挙げているが、今後の研究の発展を期するためにも、その生成機構の解明が重要である。従来知己のあったグループ同士の研究協力であり、提案の目的は達成された。ただし、この報告ではフィンランド側の研究にどのようなインパクトがあったかが明確には見えない。

(2)交流成果の評価について

同じ専門分野の研究グループ同士でもあり、若手研究者が積極的に交流できたことは大きな成果である。この分野はフランスを含め多くの研究者が活発な研究を行っており、国際シンポジウムへの参加などによって多国間の交流が行われる機会を、本プロジェクトとして持つことも望ましかった。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本プロジェクトは、球状中空金属錯体の自己組織的合成で世界的名声を馳せている両国の研究者が、その自己組織化生成機構の解明を試みるための共同研究である。両者がもつ共通の課題である生成機構解明を、大学院生、若手研究者を主体として参画させ、国際的学術誌に刊行される成果を得るに至ったことは高く評価できる。

共同研究の成果が著名な国際学術誌に4報刊行されており、両国の研究グループの高い研究業績と、綿密な協力体制が反映されている。